

春の叙勲に本学から3氏 平成26年度科学技術分野の文部科学大臣表彰で科学技術賞を受賞

お知らせ

- ・平成26年度北海道大学公開講座（全学企画）安全・安心な社会とくらしを創る
- ・企画展示「読んで知る北大の人と歴史」開催中
- ・北海道地区福祉共同事業契約宿泊施設の開設





北海道大学交流デー
(フィンランド アールト大学)



新入生対象留学オリエンテーション

1 総長就任1年を省みて、そして展望

全学ニュース

- 2 北海道大学交流デー（フィンランド アールト大学）を開催
- 2 北海道大学交流デー（中国 華中科技大学・湖南大学）を開催
- 4 春の叙勲に本学から3氏
- 8 平成26年度科学技術分野の文部科学大臣表彰で科学技術賞を受賞
- 9 平成26年度「全学教育科目に係るTA研修会」を開催
- 9 「平成27年度採用分 日本学術振興会特別研究員申請セミナー」の開催
- 10 国際連携アドバイザー 武田修三郎氏講演会を開催
- 10 「新入生対象留学オリエンテーション」を開催
- 11 「日本語研修コース」入学式を挙行政
- 12 第7回「食と健康」研究会を開催
- 13 北大フロンティア基金

部局ニュース

- 14 経済学部でメンタルヘルス講演会を開催
- 14 水産学部3年生キャンパス移行式を実施
- 15 水産学部で函館キャンパス移行成績優秀者表彰（くろしお賞）の授与式を挙行政
- 15 水産科学院・水産学部でTA研修会を開催
- 16 平成26年度薬学実務実習開始セレモニーを挙行政
- 16 薬学部で新入生歓迎会を開催
- 17 低温科学研究所技術部職員が国立天文台ASTE望遠鏡用多色連続波カメラの現地作業をチリ共和国で実施
- 18 脳科学研究教育センター発達脳科学専攻の開講式を挙行政
- 18 総合博物館で「ミュージアムマイスター認定式」を挙行政
- 19 新渡戸稲造墨蹟を大学文書館で受贈
- 19 百年記念会館2階回廊の大学沿革展示をリニューアル
- 20 工学部学生宮澤弘幸旧蔵アルバムを大学文書館で新たに受贈

お知らせ

- 21 平成26年度北海道大学公開講座（全学企画）安全・安心な社会とくらしを創る
- 22 企画展示「読んで知る北大の人と歴史」開催中
- 22 北海道地区福祉共同事業契約宿泊施設の開設

同窓会との交流

- 24 北海道大学ほっかいどう同窓会設立記念 ノーベル化学賞 鈴木章先生を囲む座談会

レクリエーション

- 25 平成25年度 第26回札幌社会人フットサルリーグに出場

表敬訪問

- 25 国内
- 26 海外

諸会議の開催状況 27

学内規程 28

研修

- 28 平成26年度北海道地区国立大学法人等初任職員研修（一般職）

人事 29

- 31 新任部局長等紹介

資料

- 32 役職員数（平成26年5月1日現在）



経済学部
メンタルヘルス講演会



水産学部
3年生キャンパス移行式



薬学部
新入生歓迎会



新渡戸稲造墨蹟

総長就任1年を省みて、 そして展望

総長 やまぐち 山口 けいぞう 佳三

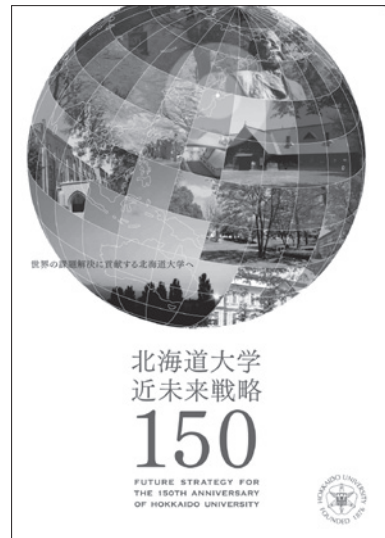


昨年4月に総長就任以来、1年を経て通年の学事をこなす、ようやく総長として果たすべき職務の概観を得ることができたように思います。昨年4月早々には、北海道経済連合会における講演をはじめとして、いくつかの経済団体での会合に出席し、北海道産業競争力協議会では、議長役をも務めました。そこで強く感じたことは、北海道という地域社会における、北海道大学への期待です。

今年度の本学の最大の課題は、平成28年度から始まる第3期中期目標・中期計画の策定であります。すでに、5月の教育研究評議会において報告したように、策定本部を立ち上げ、作業を開始しています。第3期に向けての計画立案の過程では、各部署のお考えを伺うべく私との対話の機会を持ちたいと考えていますので、ご協力のほど、お願いします。

すでに、今年の年頭所感の中で報告していますように、昨年11月に発表された文部科学省の「国立大学改革プラン」では、平成26・27年度の両年度は、改革加速期間と位置づけられ、文部科学予算のありようも平成26年度予算から変わってきています。この状況を受けて、本学でも昨年度末には、「北海道大学創基150周年に向けた近未来戦略—世界の課題解決に貢献する北海道大学へ—」を策定し、今年4月には、ホームページにも公開しました。この「近未来戦略」をベースに、第3期に向けた具体的な中期目標・中期計画をすべての構成員と共通認識を持ちながら、策定してまいりたいと思います。

昨年秋以来、大学に対する要請が相次いでいます。中央教育審議会では、大学分科会が「大学のガバナンス改革の推進について」の審議まとめを出し、高大接続特別部会からは、「達成度テスト」についての審議経過報告が出され、まもなく審議まとめが出される予定です。すでに、「大学のガバナンス」については、この審議まとめを受けて、文部科学省が今国会に学校教育法と国立大学法人法の改正案を提出しています。法案成立の場合には、各大学法人の対応が求められます。また、「達成度テスト」についても、幾分トーンは弱まっていますが、教育再生実行会議での議論が概ね踏襲された内容が方向づけられるようです。国立大学協会でも、この話題をようやく議論しようとしていますが、対応が後手にまわっている感は否めません。この問題は、高校大学双方での議論の深まりが求められていると思います。皆さんが関心を持って議論されることを希望しています。



「北海道大学近未来戦略150」小冊子

◆ホームページURL
http://www.hokudai.ac.jp/introduction/information/hokudai_kinmirai.pdf

■全学ニュース

北海道大学交流デー（フィンランド アールト大学）を開催

本学では、留学生受入れや共同教育・研究及び学生交流を更に促進するため、3月10日（月）にフィンランド共和国エスポー市にあるアールト大学において北海道大学交流デーを開催しました。

アールト大学の前身は、ヘルシンキ工科大学、ヘルシンキ経済大学及びヘルシンキ芸術デザイン大学の各分野で有力な3つの大学で、これらが2010年に合併され、現在は学生約2万人、教職員約5,000人が在籍する大学となっています。

本学とは2013年7月に大学間交流協定を締結しました。

大学交流デーの開会式には、アールト大学からは、ラエバーラ副学長他、教職員、学生等22名の出席があり、本学からは、上田一郎理事・副学長をはじめ、各研究科等から合わせて25名の教職員が出席しました。

開会式では、まず、ラエバーラ副学長の挨拶からはじまり、続いて本学上田理事・副学長の挨拶のあと、篠田研次駐フィンランド大使から挨拶をい

ただきました。その後、ラエバーラ副学長から、アールト大学の紹介があり、引き続いて上田理事・副学長による本学の概要、国際交流に関する実績等の説明が行われました。

開会式の後は、昼食を挟み、工学研究院 成田吉弘教授、梅垣菊男教授、森 太郎准教授、小澤丈夫准教授、理学研究院 相川弘明教授、情報科学研究科 菅原広剛准教授がそれぞれ代表となる分科会に分かれ、アールト大学との研究交流を行いました。また、梅垣教授、相川教授の分科会では、ヘルシンキ大学との研究交流も行われました。

今後もヘルシンキオフィスでは、フィンランドをはじめ欧州諸国の教育・研究機関等との連携拡大、教員や学生の相互交流の促進、卒業生ネットワークの構築を行い、学術面にとどまらない幅広い面での交流を強化していきます。

（国際本部国際連携課）



開会式の様子



ラエバーラ副学長の挨拶

北海道大学交流デー（中国 華中科技大学・湖南大学）を開催

本学では、共同教育・研究及び学生交流を更に促進するため、3月28日（金）に華中科技大学で、3月30日（日）には湖南大学において、北海道大学交流デーを開催しました。

華中科技大学は中国内陸部の大都市である武漢市にあり、教職員約1万3,000人、学生約6万人が在籍する国立総合大学です。本学とは法学研究科が2009年に部局間交流協定を締結し、2012年に大学間交流協定を締結しています。

開会式には、同大学から駱清銘副学長をはじめ、教職員、学生等254名の出席があり、本学からは、山口佳三総

長をはじめ、36名の教職員及び学生が出席しました。

開会式では、駱副学長の挨拶からはじまり、続いて、本学 山口総長の挨拶の後、日本学術振興会北京研究連絡センターの和田 修所長から祝辞をいただきました。その後、華中科技大学国際協力交流処の余翔処長から同大学の紹介があり、最後に、本学北京オフィスの野澤俊敬所長による本学の国際交流及び日本への留学等の説明がありました。

開会式の後は、5つの分科会に分かれて、研究交流セミナーが行われました。

第1分科会は、本学教育学院多元文化教育論講座と華中科技大学外国語学院日本語学科、第2分科会は、本学工学院と華中科技大学機械学院、第3分科会は、本学農学研究院、保健科学研究院、理学院及び生命科学院と華中科技大学の生命科学與技術学院、第4分科会は、本学理学研究院と華中科技大学の物理学院、第5分科会は、本学法学研究科と華中科技大学法学院との間で行われ、本学の紹介や研究交流が行われました。これらの分科会には、本学の参加者を含め、全体で107名が参加しました。

また、各分科会と並行して、華中科技大学との研究交流も進められてい

技大学学術交流センター8号機のロビーで留学個別相談及び本学のパネル展が行われました。

3月30日(日)には湖南大学で大学交流デーを行いました。

湖南大学は、中国湖南省の省都である長沙市にあり、教職員約4,300人、学生約3万人が在籍する大学で、本学とは、2013年10月に大学間交流協定を締結しています。

開会式には、同大学から趙躍宇学長をはじめ、教職員、学生等252名の出席があり、本学からは、上田一郎理事・副学長をはじめ、35名の教職員及び学生が出席しました。

開会式では、湖南大学の趙学長の挨拶からはじまり、続いて、本学 上田理事・副学長の挨拶の後、日本学術振

興会北京研究連絡センターの和田所長から祝辞をいただきました。その後、湖南大学国際合作交流処の左権文処長から同大学の紹介があり、最後に、北京オフィスの野澤所長による本学の国際交流及び日本への留学等の説明がありました。

開会式の後には、5つの分科会に分かれて、研究交流セミナーが行われました。

第1分科会は、本学教育学院多元文化教育論講座と湖南大学外国語学院日本語学科、第2分科会は、本学法学研究科と湖南大学法学院、第3分科会は、本学工学院と湖南大学電気興信息学院、第4分科会は、本学工学院と湖南大学機械工程学院、第5分科会は、本学農学研究院、保健科学研究院及び理

学院・生命科学院と湖南大学生物学院との間で行われ、本学の紹介や研究交流が行われました。これらの分科会には、本学の参加者を含め、全体で143名が参加しました。

また、分科会と平行して、湖南大学外国語学院のロビーにおいて留学個別相談を行ったほか、本学各研究科等を紹介するパネル展が行われました。

今後も国際本部では、北京オフィスを活用し、中国における教育・研究機関等との連携拡大、教員や学生の相互交流の促進、卒業生ネットワークの構築を行い、幅広い面での交流を強化していきます。

(国際本部国際連携課)



華中科技大学での開会式



湖南大学での開会式



華中科技大学で挨拶する山口総長



挨拶する湖南大学の趙学長



湖南大学で挨拶する上田理事・副学長

春の叙勲に本学から3氏

このたび、本学関係者の次の3氏が、平成26年春の叙勲を受けることについて、4月29日（火）に発表となりました。

勲章	経歴	氏名
瑞宝中綬章	名誉教授（元 経済学部教授）	石坂 昭雄
瑞宝中綬章	名誉教授（元 工学部教授）	谷口 博
瑞宝単光章	元 北海道大学病院看護部看護師長	大沢 修子

各氏の長年にわたる教育・研究等への功績と我が国の学術振興の発展に寄与された功績に対し、授与されたものです。各氏の受章にあたっての感想、功績等を紹介します。

（総務企画部広報課）



いしざか あきお
石坂 昭雄 氏

感想

この度は、叙勲の榮を賜り、まことに光栄に存じます。ご高配を賜りました皆さま方に厚く御礼申し上げます。

私が、琴野 孝先生の後を承けて、北海道大学経済学部の西洋経済史担当の助教授として赴任したのは、1966年8月のことで、北海道大学初代経済学部長を務められてから東京大学に移られた日本経済史の山口和雄先生からのお勧めによるものでした。爾来33年にわたり、本学で、研究と教育に従事してまいり、この間、同じ経済史関係の同僚や研究の仲間の皆さんだけでなく、これこそが総合大学の魅力であり、戦後の法文学部当時からのよき伝統が受け継がれていたといえますが、狭い専門や学部、学科の垣根をこえた、文系の諸学部だけでなく、ときには理系も含めた本学の多くの先輩や同僚の方々との知的、学問的交流のなかから非常に大きなものをえることができました。

もちろん、当初は現在と違って、研究の中心から遠く離れた北海道大学で西洋経済史の研究、しかもとりわけオランダ経済史という、比較経済史研究では極めて重要ながわが国ではまだまだ未開拓といって良い分野の研究に携わるのには少なからぬ不便はありましたが、他方で、この研究テーマを選んだことで、そして若いうちから講義や演習でも、大学院での研究指導でも、西洋経済史全般について責任をもたされたお陰で、長い目で見れば、一国経済史の枠組みを越えたヨーロッパの全体としての発展や国際的関連への視野を身につけることにもなりました。そして、1972年に博士論文にもなった『オランダ型貿易国家の経済

構造』を出版して、これまでのオランダ経済史研究に一つの区切りをつけることができましたが、その後は、オランダ経済史や隣接のベルギー経済史研究を基盤としながらも、オランダの経済的興隆と17世紀のヨーロッパ経済との関連、オランダ・ベルギーのプロテスタントの信仰亡命者による経済活動の移転、あるいは工業化における地域の問題など、ヨーロッパ経済史全体に関わる問題に積極的に取り組んでまいり、またいろいろの共同研究や執筆の機会も与えられました。研究の条件も次第に改善され、いろいろの重要な文献を本学の図書館に整備できただけでなく、国内のみならず海外の大学からの相互貸借の道も開かれて、在職中はひとかたならずその恩恵を蒙りました。また、1983年頃から、私自身も研究代表者の一人になって、西ヨーロッパの地域と工業化についての新しい視点での全国的な共同研究を組織したのですが、その研究成果の刊行でも、厳しい出版事情のなか、二度にわたって北海道大学図書刊行会（現北海道大学出版会）のお世話になりました。

この度このような栄誉に浴することができたのも、こうして長年にわたってよき研究環境を与えてくださった北大、そして同僚や多くの周囲の研究者のみなさん、家族のご支援のおかげと考えております。最後になりましたが、ここに深く感謝し御礼申し上げる次第です。

功績等

石坂昭雄氏は、昭和10年4月29日京都市に生まれ、同33年3月東京大学経済学部経済学科を卒業、同年東京大学大学院社会科学研究所理論経済学・経済史学専門課程修士課程に、同35年同博士課程に進学、同39年3月東京大学大学院経済学研究科博士課程（社会科学研究所の改組により改称）理論経済学・経済史学専門課程を単位修得退学し、同年4月に東京大学社会科学研究所助手に採用されました。

昭和41年8月に北海道大学経済学部助教授に昇任後、同49年9月25日には東京大学から経済学博士の学位を授与され、同53年4月北海道大学経済学部教授に昇任、平成8年1月から同9年12月まで経済学部長に就任し、同11年3月に停年により退職し、同11年4月に北海道大学名誉教授の称号が付与されました。その後、平成11年4月から札幌大学経済学部で教鞭をとり、同13年4月から同15年3月まで経済学部長、同15年4月から同18年3月まで大学院経済学研究科長として当該学部・大学院の発展に努められ、同18年3月に定年により退職されました。

同氏はイギリス重商主義の租税政策の研究を起点とした比較史的見地による同時代のオランダ租税制度研究に取り組むほか、オランダ経済史研究の延長線上に、オランダから分離独立したベルギーの産業革命研究でも優れた論考を発表し、さらには国境を越えた全ヨーロッパ的関連を視野に入れた国際経済史研究へと研究領域を発展させました。これらの業績をまとめた著書や西洋経済史・一般経済史の概説書などを意欲的に刊行する傍ら、ヨーロッパの西洋経済史研究の名著の翻訳にも尽力し、日本の西洋経済史学発展に大きく寄与されました。

北海道大学外においては、土地制度史学会（現政治経済学・経済史学会）理事や社会経済史学会理事として当該学会の運営に携わるとともに、後進の指導にあたられました。

一方、同大学内においては、教育者として優秀な人材を数多く世に送り出すとともに、評議員や経済学部長として大学行政の枢機に参画し、また経済学部の発展に貢献されました。

上述のとおり、同氏は40年近くにわたり、北海道大学及び札幌大学の研究教育・運営に尽くすと同時に、日本における西洋経済史学の優れた研究者としてその発展に貢献され、その功績は誠に顕著であります。

略 歴

生年月日	昭和10年4月29日
昭和39年4月	東京大学社会科学研究所助手
昭和41年8月	北海道大学経済学部助教授
昭和53年4月	北海道大学経済学部教授
平成元年8月	北海道大学評議員
平成3年7月	
平成8年1月	北海道大学経済学部長、北海道大学評議員
平成9年12月	
平成11年3月	北海道大学停年退職
平成11年4月	北海道大学名誉教授
平成11年4月	札幌大学経済学部教授
平成13年4月	札幌大学経済学部長
平成15年3月	
平成15年4月	札幌大学大学院経済学研究科長
平成18年3月	

（経済学研究科・経済学部）



谷口 博 氏
たにぐち ひろし

感 想

この度、関係各位のご推挙による教育功労が認められ、叙勲の榮譽に浴することができました。心から厚くお礼申しあげま

す。思い出しますと、昭和28年に北海道大学工学部機械工学科を卒業して10年を三菱日本重工業（現在の三菱重工）にて過ごし、熱機関の設計開発に従事しましたが、縁あって昭和38年に北海道大学助教授として機械工学科に勤務することになりました。

大学での教育研究生活に入る前から、熱機関に関連する火炉内放射伝熱を研究テーマとしておりましたが、昭和35年頃に我が国で最初のIBM大型コンピュータ利用を始めておりましたので、三次元積分方程式による放射伝熱の数値解析を目指していたのです。しかし、世界の趨勢は二次元積分方程式による解析に止まっており、実機の必須条件である三次元積分方程式への挑戦は皆無でした。幸い、米国テキサス大学ハウエル教授のモンテカルロ法による二次元積分方程式の数値解析のあることを知り、三次元数値解析への拡張を試みることにしましたが、当時の大型コンピュータでも計算時間が制限を越え苦勞したことを覚えております。このテーマによる研究成果を纏めることで、昭和48年に博士学位を取得することができ、昭和54年には教授に昇任させて頂きました。

一方、熱機関の新しいテーマとして蒸発過程を伴う動力発生の実機開発に取り組むため、新技術開発事業団（現在の科学技術振興機構）から億単位の研究費を獲得し、昭和59年には開発に成功し、昭和61年に空気調和・衛生工学会論文賞を受賞することができたのです。その間、昭和57年には文部省在外研究員として米国カリフォルニア大学に滞在し、同大学ギート教授との共同研究による理論解析に成功して、米国機械学会論文集への掲載を果たしております。

モンテカルロ法による実機火炉開発への応用は、三次元放射・対流共存伝熱の数値解析として全国各企業との共同研究テーマになり、平成7年に米国ミシガン大学ヤン教授との共同執筆で英文著書“Advances in Heat Transfer Vol.27”を独占出版（通常は幾つかのテーマによる出版）することができたのです。この研究成果が認められて、平成7年に財団法人谷川熱技術振興基金熱技術賞、平成8年に日本燃焼学会功労賞、平成10年には北海道科学技術賞を受賞しております。また、この火炉開発テーマと動力発生の実機開発テーマの双方が評価されて、平成18年の北海道功労賞の受賞に繋がりましたが、北海道科学技術賞と功労賞のダブル受賞は工学部で二人目と伺い、身に余る光栄と存じている次第です。

学部および大学院教育の教科書として昭和51年から平成24年の間に、電子計算機の応用、蒸気原動機、熱と流れのコンピュータアナリシス、大学講義シリーズ蒸気原動機、

品質管理,モンテカルロ法による放射伝熱解析,エネルギー管理, エネルギー・環境への考え方, 例題で学ぶ品質管理などの書籍を出版して, 多くの学生の方々に利用して頂きました。

現在のところ, 軽度の身体障害はご座いますが, 北海道知事の委嘱による教育講座あるいは国際会議での発表などを通じて, 専門分野にて微力ながらお役に立つことができればと思っております。関係各位に改めて感謝申しあげ, お礼の言葉にさせていただきます。

功績等

谷口 博氏は, 昭和28年3月北海道大学工学部機械工学科を卒業後, 三菱日本重工業株式会社勤務を経て, 同38年1月に北海道大学工学部助教授に採用されました。その後, 昭和54年4月教授に昇任し, 平成6年3月31日停年により退官され, 同年4月に北海道大学名誉教授になられ, 退官後も北海学園大学教授として招かれ, 平成13年3月に退職されるまでの間, 熱機関学の研究・教育の発展に尽力されました。

同人は, 一貫して火炉内の伝熱に関する研究に取り組み, 特に, 放射伝熱解析の分野で先端的かつ独創的な研究を行ってこられました。具体的には, 従来, 経験的な実験式を組み込んだ予測手法しかなかった火炉内の伝熱解析の分野に, 偶然現象の経過をシミュレーションする場合に乱数を用いて数値計算を行い, 問題の近似解を得る方法であるモンテカルロ法を導入し, 複雑な燃焼場でのガス温度分布, 壁面への熱流束分布を求める手法を確立され, 伝熱解析を短時間で行うことを可能としました。この成果は, 効率的で低公害のボイラや未利用エネルギー有効活用の研究に繋がる等, エネルギー産業界での技術開発に大きく貢献され, これらの功績に対して, 平成7年に財団法人谷川熱技術振興基金熱技術賞, 平成8年に日本燃焼学会功労賞, 平成10年には北海道科学技術賞を受賞されました。

同人はまた, 熱機関サイクルの効率向上のための研究にも努められ, 熱併給ガスタービンプラントの性能解析, ガス-蒸気複合サイクルの性能解析, ヒートポンプ・ボイラシステムの開発を行われました。特にヒートポンプ・ボイラシステム(注:熱機関の発生動力でヒートポンプを駆動し, 低熱源からくみ上げた熱と熱機関の排熱とを組合せて熱供給を行う方式)は, その概念の提案や性能解析のみならず, これに用いられる各種のコンポーネントの効率向上を目的とした実験・解析を行い, これらをまとめたパイロットプラントの運転と性能の実証を通じてその実用化に努められた結果, 札幌駅北口地域の地域暖房プラントに採用され, この業績により, 昭和61年に空気調和・衛生工学会論文賞, 平成18年に北海道功労賞を受賞されました。

同人は, 教育・研究に従事する傍ら, 学内において発明委員会委員長や各種情報関係委員会委員を務め, 本学の情報処理の教育・運営面で多大な貢献をされ, 工学部においても, 省エネルギー委員会, 大学院制度委員会, 施設委員会の委員長等を務められ, 工学部の運営に参画するとともに,

その発展に尽くされました。さらに学外においても, 日本機械学会北海道支部長, 空気調和・衛生工学会理事及び北海道支部長等, 我が国の熱関係の学協会の委員を歴任し, 学術の発展に大いに寄与された他, 新技術開発事業団の幹旋委員として, 大学や公的機関での研究成果が産業界で活用されるよう尽力されました。

また, 米国カリフォルニア大学, ミシガン大学, 韓国全北大学, 中国精華大学, 浙江大学, 哈爾濱工業大学等との研究交流を通じて, 国際的な研究協力の推進に努められ, 浙江大学からは名誉教授の称号を授与されております。

以上のように同人は, 国内外を問わず教育及び学術研究の発展に尽力するとともに, 学生や大学運営, 産業界, 地域社会へその成果を還元し, 多くの業績を残されております。

略 歴

生 年 月 日	昭和5年12月5日
昭和28年4月	三菱日本重工業株式会社
昭和38年1月	北海道大学工学部助教授
昭和54年4月	北海道大学工学部教授
平成6年3月	北海道大学停年退職
平成6年4月	北海道大学名誉教授

(工学院・工学研究院・工学部)



おおさわ しゅうこ
大沢 修子 氏

感 想

この度は, 春の叙勲の栄誉を賜りまして誠にありがとうございます。身に余る光栄と思っております。これはひとえに関係者の皆様のご支援とご尽力の賜物と深く感謝とお礼を申し上げます。昭和50年, 学べる場所と考え, 北海道大学病院に就職させていただき, 37年間を過ごさせていただきました。思いかえすと北海道大学の緑豊かな広大なキャンパスを満喫するというより, あわただしく通りぬけた気がします。看護師になったきっかけは, 母が保健婦をしており, 小さいころから女性が仕事をするのは当たり前と考えていました。楽しく, やりがいを感じながら大学病院という場で, このように仕事を続けられたことは, 大変幸せであり幸運な人生と思っています。このことは偉大な先輩・同僚・後輩そして・北海道大学病院に関係するすべての皆様のおかげと心より感謝申し上げます。

振り返ってみますと, 入職は耳鼻科病棟で, 1人夜勤で怖かったという思いと, 患者さんとは, 終末期まで関わりが続くと肝に銘じ, ホスピスケア研究会で10年間学びました。また, 外科では急性期を確実にケアできるための技術が必要と感じた時期です。昭和58年からの手術部11年間は,

清潔ホール型手術部が日本で初めて作られ、使い方を日本中に知らせるといふ機運があり、よく実験研究を行い、毎年学会発表すると決め、指導を受けました。発表後に、その土地の最高の料理を、三浦哲夫先生がご馳走してくれることを楽しみに、皆で遅くまで頑張りました。平成10年、大田すみ子看護部長より「手術件数を上げる、生体肝移植手術の手術部での体制整備のため」と鶴の一声で手術部に出戻り、徹夜を繰り返した結果、看護師を増員していただきました。医療の進歩により最先端の手術医療が取り入れられ、医師・麻酔科医の技術の進歩に後れを取らないように、看護師も皆、常に学び、新たなことは講義をしていただきました。時代の最先端手術の醍醐味を見せていただき、10年間で手術件数を倍増できたことは、外科医・麻酔科医・看護師の技術の向上と皆の頑張りだったと思います。

管理者の役割は、良い看護を提供するための職場づくり、人を育てることと学び、近づく努力をしてきました。北海道大学病院の手術看護師の技術は、日本のトップレベルとして認められてきました。毎年、看護学会・手術医学会に研究を発表し、北海道大学版の体位アセスメント本を出版できたことも大きな成果です。日本手術看護学会副理事長の6年間は、手術看護の認定看護師申請の準備を行い、平成15年に日本看護協会から認可を受け、平成16年に1期生が誕生したことは本当にうれしい出来事でした。

卒業生が、手術を受ける患者さんの安全・安楽・安心のために実践していることで、確実に全国の手術看護師の質向上につながられたと思っています。外来の4年間は、「子育てしながら働き続けられる職場づくり」「患者さんの受診目的を達成する」をテーマに、協力し合う素晴らしいメンバーと時をともにできました。手術部・外来ともに北海道大学看護部の提唱する患者参加型看護を実践できたことも喜びです。人の付き合いは、義理と人情と感情といいながら、地で過ごさせていただき、沢山の無礼を、見過ごしてくださいました皆様に感謝申し上げます。最後になりますが、北海道大学・北海道大学病院・看護部の発展をご祈念申し上げ、お礼の言葉といたします。

功績等

大沢修子氏は、昭和26年9月6日に北海道様似町に生まれ、同47年3月に十勝衛生学院准看護婦科を卒業後、市立江別総合病院に勤務し、同50年3月に市立江別高等看護学院を卒業後、同年4月北海道大学医学部附属病院に文部技官として採用され、平成元年副看護婦長、同6年看護婦長を歴任し、同24年3月に北海道大学病院を定年退職するまで勤務されました。

同人は、当初勤務した耳鼻咽喉科病棟、第二外科病棟における看護実践では、手術を受ける患者の安全・安楽はもとより、常に患者の生活に視点を置き、周手術期の看護の質向上に努め、昭和53年日本看護学会（成人看護）で「上顎腫瘍患者の栄養面での一考察」を発表し、看護学生の実習指導やスタッフ育成、業務改善等に取り組まれました。

平成元年4月、手術部・救急部・ICUの副看護婦長に昇

任され、手術看護の専門性の確立に取り組むとともに、日本手術部医学会総会において「手術用手袋のピンホール発生頻度に関する検討」、「手術用手袋の選択に関する一考察—ピンホール発生頻度を通して」を発表され、これは手術手袋交換時間のエビデンスとなっています。

また、手術を受ける患者の安全性にも取り組み、「側臥位における腋窩保護材の一考察」等を日本手術部医学会総会で発表しました。

平成6年4月に耳鼻咽喉科病棟の看護婦長に昇任後は、手術部・救急部・透析室、医科外来ナースセンターで看護婦長を歴任されました。その間、看護管理・教育へも積極的に関わり、スタッフ及び看護職のリーダ育成に努めることで、実践力の高いチーム作りを推進しました。さらに、手術部・救急部・透析室では、在任期間10年で臓器移植医療等の高度先進医療導入を進め、年間手術件数を倍増させ、病院経営に貢献されました。

この間多数の看護研究を指導し、日本手術看護学会「眼周囲への血液飛散状況報告」等多数発表しました。平成17年初版の共著「みる 見る わかる 手術患者の体位アセスメント—術前・術中・術後の観察ポイント」は手術看護認定看護師の活動での必携の書とされるなど、手術看護の充実に貢献されています。

同人は、社会的活動も精力的に行い、北海道看護協会においては、教育委員、推薦委員を歴任され、北海道看護協会における継続教育に尽力されました。手術看護においては、平成11年度から13年度及び16年度に、日本手術看護学会北海道地区会長を歴任、併せて、平成11年度から13年度まで日本手術看護学会理事、平成16年度に副理事長を歴任され、北海道のみならず日本の手術看護をリードし、発展させました。

以上のように、本院ならびに日本における看護管理・教育、特に手術看護の充実に尽力された功績は誠に顕著であると認められます。

略歴

生年月日	昭和26年9月6日
昭和47年4月	市立江別総合病院看護婦
昭和50年4月	北海道大学医学部附属病院看護部看護婦
平成元年4月	北海道大学医学部附属病院看護部副看護婦長
平成6年4月	北海道大学医学部附属病院看護部看護婦長
平成15年10月	北海道大学医学部・歯学部附属病院看護部看護婦長
平成24年3月	北海道大学定年退職
平成24年9月	医療法人弁仁会中垣病院看護部長

(北海道大学病院)

平成26年度科学技術分野の文部科学大臣表彰で科学技術賞を受賞

理学研究院の杉山滋郎特任教授，高等教育推進機構の石村源生特任准教授，大津珠子特任准教授，三上直之准教授の4名が以下の業績により，平成26年度文部科学大臣表彰科学技術賞（理解増進部門）を受賞されました。

本賞は，日本の研究者にとって極めて名誉あるものです。

（総務企画部広報課）

部門	氏名	所属・職名*	業績名
理解増進	(筆頭者) すぎやま しばお 杉山 滋郎	理学研究院 教授	アウトリーチ活動とそれを担う人材の育成を統合した理解増進
	いしむら げんせい 石村 源生	高等教育推進機構 特任准教授	
	おおつ しゅこ 大津 珠子	高等教育推進機構 特任准教授	
	みかみ なおゆき 三上 直之	高等教育推進機構 特任准教授	

*受賞時の職名を記載。

功績等

昨今，東日本大地震などを契機に「科学技術に関わるリスク」に関し専門家と国民との間でコミュニケーションを図ることが重要になるなど，科学技術コミュニケーションの重要性がますます高まっています。また一方では，多様なコミュニケーション手法が国内外で新たに開発され，Facebookや電子書籍など新しいツールを科学技術コミュニケーションに取り込むことも求められていました。

そうした中，高等教育推進機構科学技術コミュニケーション教育研究部門（CoSTEP）では，各種の科学技術コミュニケーション活動を，それを担う人材の育成と統合して展開してきました。以下はその主要な活動例です。

- 1) サイエンスカフェのほか、「デザインワークショップ」など若者の科学技術への興味関心を高める手法を開発。
- 2) 遺伝子組み換え作物，ナノテクノロジー，BSEをテーマに，コンセンサス会議や討論型世論調査などの

対話手法での取り組み。

- 3) 電子書籍『鈴木 章 ノーベル化学賞への道』などのほか，放射能・放射線の基本を解説した電子書籍『もつとわかる 放射能・放射線』を迅速に無料で公開。
- 4) 地域住民とともに「津波避難マップを制作する」対話集会を開催し，対話集会実施のためのマニュアルを公開。

また，こうした活動を通して，科学技術コミュニケーション活動を担う人材を平成17～25年度に約550名輩出し，現在，彼／彼女たちは全国各地で活躍しています。さらに，教育プログラムに関して国内外の大学や機関からの視察の受入や，全国各地での出張授業や講演など，科学技術コミュニケーションを全国へと波及させることにも貢献してきました。

今回の賞は，こうした功績に対して授与されたものです。

（高等教育推進機構）

平成26年度「全学教育科目に係るTA研修会」を開催

高等教育推進機構では、TAの心構えや役割の理解を深めることを目的に、高等教育研究部高等教育研究部門が中心となって、平成10年度から全学教育を担当する新任TAを対象に研修会を開催しています。今年度は4月2日（水）に、大講堂及び講義室等を会場として開催し、約300名が参加しました。

午前の部では、新田孝彦高等教育推進機構長の挨拶に続いて、総合教育部長の鈴木久男教授による講演「北海道大学の全学教育について」及び文学研究科の瀬名波栄潤教授による講演「TAのVisionとMission」等が行われ、

参加者は熱心に聞き入っていました。また、教員と大学院生をパネラーに招いたパネル討論「TAの業務と役割」では、積極的な意見交換が行われました。

午後の部では、グループ学習として15の分科会に分かれて「授業における

TAの役割」や「TAに期待される業務内容」等を中心に討論・発表等が行われ、参加者はTAの役割等についての理解を深めました。

（高等教育推進機構）



新田機構長による挨拶



講演に聞き入る参加者

「平成27年度採用分 日本学術振興会特別研究員申請セミナー」の開催

4月7日（月）、研究戦略室の主催による「平成27年度採用分 日本学術振興会特別研究員申請セミナー」を理学部5号館大講義室で開催しました。

特別研究員の申請に関するセミナーは、従来、一部の部局で独自に開催していましたが、全学を対象としたもの

としては、今回が初めての開催となります。

当日は、日本学術振興会研究者養成課より箕作康志課長を講師として迎え、特別研究員制度について説明をいただきました。続いて、申請書作成のポイント、作成のためのヒントについ

て、特別研究員の書面審査委員経験者である理学研究院の倉本 圭教授より、講演がありました。

会場は立ち見が出るほどの大盛況となり、活発な質疑応答がなされました。

（研究推進部外部資金戦略課）



会場の様子



理学研究院 倉本教授による講演

国際連携アドバイザー 武田修三郎氏講演会を開催

本学では、本年4月より国際交流事業の推進のために文部科学省参与 武田修三郎氏に国際連携アドバイザーを委嘱しました。

武田アドバイザーには、本学の国際化推進、特に米国の大学との交流に関し、総長に助言をいただくこととしております。

4月10日（木）に事務局大会議室において、役員、部局長、評議員、部課長を対象として、武田アドバイザーに

よる「21世紀の大学」と題する講演会を開催しました。講演では、日本の現状から21世紀の大学における人材育成、本学に期待することなど幅広い示唆的なご意見を賜り、大変貴重な機会となりました。今後も、教職員、学生に対して、様々な機会を通じて、国際化推進に関するご助言、ご指導をいただくこととしております。

（国際本部国際連携課）



講演の様子

「新入生対象留学オリエンテーション」を開催

国際本部において「新入生対象留学オリエンテーション」を4月23日（水）、24日（木）及び25日（金）の3日間にわたり開催し、約150名の新入生が参加しました。この企画は、新入生に本学での留学機会・留学情報の入手方法・国際交流科目など、本学の留学支援システムについての概略説明を行い、留学に関心を持ってもらい、留学説明会などに積極的に参加してもらうことを目的として実施しています。

オリエンテーションでは、文学研究科 瀬名波栄潤教授（23日・25日）、経済学研究科 高井哲彦准教授（24日）から、留学の意義について、それぞれのバックグラウンドや専門分野の話を織り交ぜた激励のメッセージがあり、今回のオリエンテーションを留学につ

いて考えるきっかけにすると共に語学試験の準備などは早めに始めてほしいとの発言がありました。

次いで、国際教務課スタッフより、国際本部の活動内容の紹介、留学に関する情報収集法や語学学習法の説明、留学生と交流できる機会、本学が実施している短期語学研修プログラム及びファースト・ステップ・プログラム（FSP）の紹介を行いました。最後に、国際交流サークルSACLAから活動内容についての簡単な紹介があり、参加者は最後まで熱心に聞き入っていました。終了後に、個別相談を希望する学生もみられ、留学に対する関心の高さがうかがわれました。

国際本部は、海外留学説明会を定期的に開催するほか、地域別・プログラ



新入生に激励のメッセージを送る瀬名波教授

ム別説明会・各種セミナーを充実させるなど、北大生の留学をより身近なものとするため、情報提供に努めています。

国際本部では、留学相談も行っていきますので、留学希望の学生にご紹介いただければ幸いです。

（国際本部国際教務課）

「日本語研修コース」入学式を挙行



入学式での集合写真

4月入学の「日本語研修コース」入学式を4月9日（水）午前9時30分より国際本部大会議室において行いました。

本コースは大使館推薦の国費外国人留学生に対して、大学院進学前の予備教育として開設されている6ヶ月間の研修コースです。今回本コースには、研修修了後に帯広畜産大学に進学する2名、小樽商科大学に進学する1名を含む14か国16名の留学生が入学しました。

入学式では、最初に来賓の方々や教

員の紹介が行われた後、留学生一人ひとりの名前が読み上げられ、学生はそれぞれ起立し、来賓の方々や教員、他の学生に向かって挨拶をしました。その後、杉浦秀一留学生センター長からの祝辞がありました。初めは緊張気味だった学生たちも、最後の写真撮影時にはすっかりリラックスした表情になっていました。

入学式終了後、入学生は学術交流会館に移動し、国際本部主催の新規渡日外国人留学生のためのオリエンテーションに参加しました。オリエンテー

ションの資料は、本学のロゴのついたリストバンド型のUSBメモリによりデータ配付され、学生は嬉しそうにリストバンドを腕にはめていました。オリエンテーションでは、大学での事務手続き等の説明のほか、各団体による活動案内や札幌北警察署による交通安全や防災についての案内などがあり、学生たちは熱心に聞き入っていました。

（国際本部国際教務課）



学生の挨拶



杉浦センター長による祝辞

第7回「食と健康」研究会を開催



活発に交わされる質疑応答

4月22日（火）、農学部（講義室N-11）において、産学連携本部が主催する第7回「食と健康」研究会を開催しました。今回、初めて農学部を会場として、日本育種学会・日本作物学会北海道談話会の協賛を得て、企業や若手研究者の方より研究成果の発表をいただきました。当日は本学研究者や学生をはじめ、食関連の研究をされている学外の研究者、企業の皆様など、80名の方にご参加いただきました。

今回は「新しい食のサイエンステクノロジー探索 その5」をテーマに、株式会社道銀地域総合研究所技術顧問の下小路英男氏が、「米1反1トンブ

ロジェクト」構想について紹介されました。基調講演では株式会社前川製作所の篠崎 聡企業化推進機構次長より「コメの活性を高める微生物・・・エンドファイトの力～生産性と機能性の向上を目指して～」と題してご講演いただきました。

また若手研究者による研究発表では、本学農学研究院の藤野介准教授から『苦くない苦ソバ「満天キラリ」』、農学研究院の小野寺康之講師から「ホウレンソウの性発現制御による効率的育種法の確立に向けた挑戦」、農学研究院の加藤英介助教から『糖代謝を調節して血糖値を「下げる」機能性食品

の開発』と題して、それぞれ発表がありました。

本研究会では、「食と健康」をテーマに学内外の講師、若手研究者が研究成果等を発表するとともに、企業等との意見交換の場を設けています。この研究会は、安全・安心で高品質な「食」「健康」「医療」分野のプロジェクト立ち上げを目指し、その取り組みを創出するための産学官のプラットフォームとして機能することを目指し、定期的に開催しています。

本研究会の事務局は、産学連携本部が担っていますが、今後も、皆さまの期待に応えられるよう、新たなプロジェクト形成に向けて、関係者のご協力を得ながら具体的な成果の創出を目指してまいります。

本研究会に興味のある方は、お気軽に、以下のメールアドレスまでお問い合わせください。

◆連絡先（産学連携本部）：
jigyo@mcip.hokudai.ac.jp

（産学連携本部）



株式会社道銀地域総合研究所
技術顧問 下小路氏



株式会社前川製作所 企業化推進機構
次長 篠崎氏



農学研究院 藤野准教授



農学研究院 小野寺講師



農学研究院 加藤助教

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を發揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動することとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報	15,786件	2,854,695,888円
基金累計額（4月30日現在）	教職員の寄附率	32.4%（1,251件／3,861人）

4月のご寄附状況

法人等4社、個人230名の方々から7,134,000円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名、総合博物館への銘板の掲示について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

株式会社MATコンサルティング、日本精工株式会社、日本甜菜製糖株式会社、三井造船株式会社

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	今西 聖貴	入澤 秀次	梅田 教生	岡田 雅彦	小内 透	小原 大和	帰山 雅秀
金川 眞行	河本 充司	久米 尚雄	後藤 篤志	小森 克俊	斉藤 久	桜井 謙介	塩井 孝
清水 孝洋	清水 将司	下井 隆史	杉原 高嶺	角井 碧	瀬名波栄潤	高橋 光彦	武田 伸一
土家 琢磨	寺澤 陸	豊田 威信	中坪 俊一	中西 信行	中山 浩二	永吉 祐輔	永吉 規子
本郷 隆二	牧内 勝哉	三善 好造	武藤 健一	守屋 洋	山内 隆嗣	山崎 賢司	吉田 広志
和井田泰右							

銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

（法人等）

三井造船株式会社

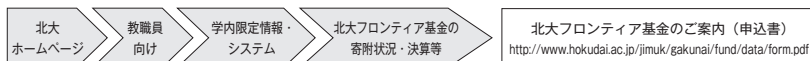
（個人）

小森 克俊、塩井 孝、
永吉 祐輔、永吉 規子、
武藤 健一

ご寄附のお申し込み方法

①給与からの引き落とし

申込書は、本学ホームページの「学内限定情報・システム」からダウンロードし、ご記入の上基金事務室に提出してください。



②郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお渡します。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、事務局財務部経理課収入担当にご持参ください。申込書は、本学ホームページから上記①の要領でダウンロードしてご記入いただくか、各部署事務担当及び事務局財務部経理課収入担当にご用意していますので、ご利用ください。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室（事務局・学内電話 2017）

（総務企画部広報課）

■ 部局ニュース

経済学部でメンタルヘルス講演会を開催

経済学部では、4月7日（月）午後3時から、人文・社会科学総合教育研究棟W103教室において、メンタルヘルス講演会を開催しました。本講演会は、新入生オリエンテーションの一環として、経済学部1年生と総合入試から経済学部に進級した2年生を対象としたもので、保健センター講師の齋藤

暢一朗氏を講師に迎え、ストレスとその対処法等についての講演がありました。

当日は200名近い学生及び教職員が参加し、熱心に講演に聴き入っていました。また、参加者に対して講演終了後に実施したアンケートでは、特にストレス解消法として紹介された「不眠

の対処法」と「先送り行動への対処法」について、「大変参考になった」「ぜひ実践したい」等の感想が多く寄せられました。

（経済学研究科・経済学部）



講演する齋藤講師



熱心に講演を聴く学生

水産学部3年生キャンパス移行式を実施

水産学部3年生の函館キャンパスへの移行に伴い、4月2日（水）午前9時30分より、平成26年度キャンパス移行式を実施しました。

式には、安井 肇水産学部長のほか、副研究院長、評議員、学科長、教務委員長、学生委員長、学科担任が出席し、

学部長から208名の移行者へ、水産学部と函館における学生生活の心得と激励があった後、出席者が紹介されました。

また、移行式終了後に行われた全体ガイダンスでは、担当教員から函館キャンパスでの学修、学生生活及び

キャリア支援などについて説明があり、午後からは学科別に分かれてのガイダンス並びに教職課程・学芸員に関するガイダンスを実施しました。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）



移行生を激励する安井学部長



式終了後にポニーと触れ合う学生

水産学部で函館キャンパス移行成績優秀者表彰 (くろしお賞) の授与式を挙行

4月17日(木)、水産学部学部長室において、「くろしお賞」の授与式を行いました。

本表彰は、優れた学業により水産学部第3年次に進級した(函館キャン

パスに移行した)学生を表彰する制度として、水産学部独自に創設され、今回初めて表彰するものです。

受賞者である海洋生物科学科3年の山本佑樹さんには、安井 肇水産学部

長から賞状の授与及び副賞の贈呈が行われました。

(水産科学院・水産科学研究院・水産学部)



賞状を手にする山本さんと安井水産学部長

水産科学院・水産学部でTA研修会を開催



グループ学習の様子

4月4日(金)に函館キャンパス及びその近郊の大学院学生を対象にした「TA研修会」を実施しました。水産科学院・水産学部では、この「TA研

修会」を「大学の短時間勤務職員採用時の研修」と位置づけて、原則受講しないとTAを行うことはできないことにしています。

研修会の前半は、(1)大学教育の基礎、(2)TAについて(全般、実験実習、職業)の2つのレクチャーを行いました。受講者は、大学教育の成立ち、シラバスの説明、実験実習におけるTAとしての心構え・役割と教員との関係、大学の短時間勤務職員としての留意事項や安全衛生に関する知識を深めました。研修の後半では、参加者がTAを行う予定の学科ごとに分かれて、TAが遭遇しそうな事柄に対してどう対処するかのケーススタディとプレゼンテーションのグループ学習を行いました。

当日はTA予定者105名の参加があり、グループ学習では、参加者が相互で、あるいは教員とTAの意見交換をすることで、TAとしての責任を改めて意識できたようです。

(水産科学院・水産科学研究院・水産学部)

平成26年度薬学実務実習開始セレモニーを挙

薬学部では、5月7日（水）午前8時45分より、平成26年度薬学実務実習開始セレモニー「臨床現場へあがるための心得」を挙行しました。

この式は、薬学部が6年制の薬学科（薬剤師を養成）と4年制の薬科学科（薬を作り出すための研究者や技術者を養成）の2学科制となつてから5回目の実務実習（病院実習・薬局実習）に、薬学科5年次生が臨むにあたって実施したものです。学生は、実習中のユニフォームとなる真新しい上下の白

衣に身を包み、引き締まった面持ちで参加していました。

式には、南 雅文薬学部長、井関健教務委員長、実務実習担当教員らが出席し、実務実習の趣旨や学生に期待すること、昨年度実施された実務実習をふまえての注意点などとともに、激励の言葉が伝えられました。

受け入れ施設からは、北海道大学病院薬剤部 山田武宏副部長、株式会社アインファーマシーズ 富樫聖子氏、株式会社ツルハ 吉町昌子氏、株式会

社コムファ 井野千枝子氏が出席し、臨床の現場・患者さんに直接接する場で実習に臨む際の心構えなどが伝えられ、学生たちの神妙に聞き入る様子が見られました。

また、南薬学部長から学生一人ひとりへ実習中着用するネームプレートが手渡され、病院・薬局合わせて5か月に及ぶ実習への壮行となりました。

（薬学研究院・薬学部）



激励の言葉をかける南薬学部長



株式会社アインファーマシーズ 富樫氏の話に耳を傾ける学生



株式会社ツルハ 吉町氏からの挨拶

薬学部で新入生歓迎会を開催

薬学部では、4月11日（金）に北部食堂において、後期入試で薬学部へ入学した1年生24名及び薬学部へ移行してきた2年生82名の歓迎会を開催しました。

歓迎会には、薬学部・薬学研究院全体で約350名の参加者が集まり、南雅文薬学部長の挨拶の後、学年、研究室を超えて互いに交流を深め、ビンゴ大会など、盛会のうちに終了しました。

（薬学研究院・薬学部）



学年を越えて交流



盛り上がったビンゴ大会



学生・教員との交流



低温科学研究所技術部職員が国立天文台ASTE望遠鏡用 多色連続波カメラの現地作業をチリ共和国で実施

このたび、平成20年度に採択された科学研究費補助金特別推進研究『超広帯域ミリ波サブミリ波観測に基づく大規模構造の進化の研究』（代表：東京大学 河野孝太郎教授）により、本研究所技術部、電子科学研究所及び理学研究院の工作系技術職員が開発に関わった国立天文台ASTE（Atacama Submillimeter Telescope Experiment）望遠鏡用のミリ波サブミリ波帯多色連続波カメラによる試験観測が行われました。今回、観測後のカメラ撤収作業並びに、今後の開発に向けた打ち合わせを兼ねて、本研究所の中坪俊一技術専門職員と森 章一技術職員の2名が、4月5日（土）から4月21日（月）の間、南米チリ共和国での現地作業に参加しました。

ASTE望遠鏡は、世界最高のサブミリ波観測サイトの一つであるチリ共和国北部アタカマ砂漠の標高約4,800m地点に設置されており、この近隣にはALMA望遠鏡をはじめとする世界各国の望遠鏡が設置されています。宿泊施設のあるサンベドロ・デ・アタカマ（標高約2,400m）からASTE望遠鏡までは、片道約70kmの山道（通称ALMA道）を通過して望遠鏡サイトへ移動しました。移動に際しては、標高約3,000mにあるALMAの施設で高山病の健康診断を受け、許可された者だけが、そこから先へ進めるシステムとなっています。これは、ASTE望遠鏡やALMA望遠鏡などがある標高5,000m地点の酸素量が標高0m地点の半分程度しかないためです。作業に際しては、寒さ

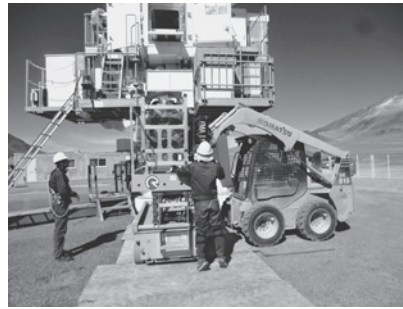
と乾燥の中、高山病への注意を払いながら行いました。

今回の試験観測では、ASTE望遠鏡の次期主力観測装置として共同利用観測に供するために、惑星、銀河系内の星形成領域、ブランクフィールドなどの試験観測を通して、光学系、冷却系、システムのノイズレベルや感度、観測手法、データ解析の評価・試験を行いました。今回は天候に恵まれ、本格運用に向けた評価を行う上で必要なデータが十分に取得することができました。今後は取得したデータの解析を進め、来年度以降の本格運用を目指します。

（低温科学研究所）



アタカマ砂漠に設置されているASTE望遠鏡。開口直径は10mで、サブミリ波帯の観測が可能な鏡面精度を持つ。



多色連続波カメラの撤収作業。写真上部のASTE受信機室から重さ約300kgのカメラを取り外し、サイトにあるコンテナへ移送した。



望遠鏡から下ろした後、カメラ本体から検出器・読み出し回路の取り外しを行った。写真中央は低温研技術部を中心に設計・製作した4K冷却光学系モジュール。

脳科学研究教育センター—発達脳科学専攻の開講式を挙

脳科学研究教育センターでは、4月8日（火）午後4時30分からファカルティハウス「エンレイソウ」第一会議室において、今年度入学した履修生の開講式を行いました。

吉岡充弘センター長（医学研究科教授）から、祝辞とともに発達脳科学専攻の特色ある教育体制や研究指導内容について説明があり、新入生は、バーチャル専攻の特徴を活かした大学院教育に、大きな期待を示していました。引き続き、渡辺雅彦副センター長（医

学研究科教授）から、修了要件についての説明があり、「所属学院・研究科の課程のみを修了する大学院生に比べ、より多くの単位を修得する必要があり、さらには当センターの合宿研修や発表会等で研鑽を積むことになり大変ではあるが、ここで学んだことは必ず将来の自信につながるので頑張ってください」との激励がありました。また、出席した基幹教員から、祝辞とそれぞれの担当講義及び研究内容の紹介がありました。

開講式に引き続き、同会場にて新入生歓迎交流会が行われ、参加者は所属部局を越えて情報交換を楽しんでいました。

本専攻には、今年度9名の履修生（修士課程8名、博士課程1名）が加わり、全体では26名の履修生が在籍することになります。

（脳科学研究教育センター）



新しく加わった履修生と基幹教員



新入生歓迎交流会の様子

総合博物館で「ミュージアムマイスター認定式」を挙

総合博物館では、平成21年度より「ミュージアムマイスター認定コース」を設定し、本学が目指す全人教育の一環を担う教育プログラムを展開しています。ミュージアムマイスターの認定条件は、認定科目の修得、GPAが認定基準以上であること、そしてプレゼンテーションを含む面接に合格することです。

平成25年度後期に、この認定条件を満たし、理学部4年の木野瑞萌さんと久保田彩さんがミュージアムマイスターに認定されました。4月30日（水）に行った認定式では、木野さんは「自分の専門とする科学の分野だけではな

く、それ以外の分野についても幅広く展示解説ができるようにしたい」、久保田さんは「1年生の頃から色々なことを学べたので、それを活かしてミュージアムマイスターとしてできることを探していきたい」とそれぞれの抱負を述べました。二人とも理学院に進学し、研究を進めています。認定式に参加した水産学部2年の岩崎 峻さんは、「卒論ポスター発表会の運営を担当した際に、発表する二人の取り組みを見て刺激を受けた。自分もマイスターを目指したい」と述べました。

「ミュージアムマイスター認定コース」の概要、プロジェクトについては

総合博物館Webサイトでも紹介していますのでご覧ください。

◆<http://www.museum.hokudai.ac.jp/education/index.html>

（総合博物館）



認定式後の記念撮影
（木野さん、津曲敏郎館長、久保田さん）

新渡戸稲造墨蹟を大学文書館で受贈

4月10日（木）、大学文書館では、秋田北盟寮の同窓会である香蘭会（会長：齋藤和雄名誉教授）から、新渡戸稲造（札幌農学校第2期生）の墨蹟（扁額）1点を受贈しました。

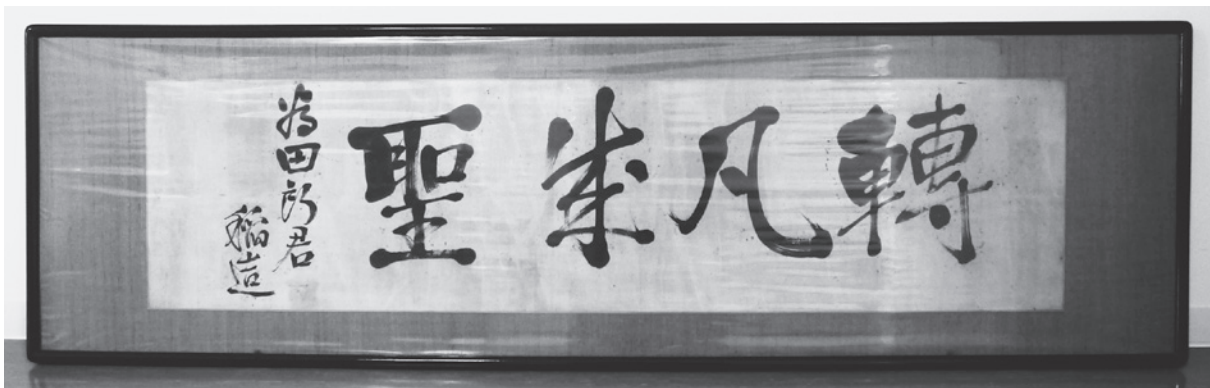
この度受贈した墨蹟は、田所哲太郎教授（東北帝国大学農科大学1910年卒業）のために、新渡戸稲造が「転凡成聖」と揮毫したものです。新渡戸が最後に北大を訪れた1931（昭和6）年に贈ったものと思われます。扁額に装幀された墨蹟は、田所哲太郎教授が理事

長を務めていた秋田北盟寮に掲げられていました。

秋田北盟寮は、秋田市出身の田所が尽力し、札幌在住の秋田県出身者・関係者のための学生寮として、1923（大正12）年9月に、現在の札幌市北区北7条西12丁目に設置されました。その後、1950年からは秋田県、1955年からは財団法人秋田県育英会が管理運営を行ない、1998（平成10）年に閉寮となるまで、600名以上の秋田県人子弟を送り出しました。

秋田北盟寮の関係資料は、秋田県立博物館に寄贈されましたが、新渡戸稲造の墨蹟については、本学と所縁の深い品であることから、大学文書館にご寄贈いただきました。大学文書館では、貴重な歴史的資料として大切に保存し、展示等を通して広く紹介して参ります。

（大学文書館）



新渡戸稲造墨蹟「転凡成聖」

百年記念会館2階回廊の大学沿革展示をリニューアル

百年記念会館では、開館以来、2階回廊で、附属図書館と大学文書館が担当する北海道大学沿革史についての常設展示を行ってきました。その常設展示について、4月24日（木）、大学文書館では附属図書館の協力を得て、大幅にリニューアルしました。

展示のリニューアルに際しては、附属図書館、大学文書館が所蔵する写真と文書資料を中心に、本学の特色ある歴史を通観できるように構成しました。北大前史に当たる東京の開拓使仮学校から始まり、当時の官立学校としては異彩を放った札幌農学校の教育、

現キャンパス移転と東北帝国大学農科大学への昇格、北海道帝国大学としての独立と医・工・理学部の設置、北大と戦争との関わり、戦後の新制大学としての新たな出発と学生運動、そして近年の国際交流や大学法人化といった内容です。

学生、職員、卒業生の方々の観覧にはもちろん、観光客のご案内や来学者のご応対にも利用できるよう、資料に基づいて北海道大学の歴史をご紹介します内容となっております。百年記念会館2階入り口には、展示概要・沿革略年表を掲載したリーフレットも備えて

います。百年記念会館の開館時間（平日9:00～20:00）には、どなたでもご覧いただけます。

（大学文書館）



展示風景

工学部学生宮澤弘幸旧蔵アルバムを大学文書館で新たに受贈

5月7日(水)、大学文書館では、秋間美江子氏から、工学部学生宮澤弘幸旧蔵のアルバム及び写真類をご寄贈いただきました。秋間氏は宮澤弘幸のご令妹です。当日、秋間氏は三上 隆理事・副学長と面談され、直接、アルバムをお渡しいただきました。

宮澤弘幸は、1937(昭和12)年4月、北海道帝国大学予科工類に入学し、1940年4月に工学部電気工学科に進学しました。在学中、登山、スキー、旅行と行動力溢れる活動を続けました。また、英語教師のレーン夫妻やドイツ語教師ヘッカー、学生にフランス語を教えた太黒マチルド、イタリア人留学生マライーニなどと深い親交を結び、

語学に堪能で国際的視野を持った学生でした。

しかし、アジア・太平洋戦争開戦の1941年12月8日、レーン夫妻とともに軍機保護法違反容疑で逮捕され、懲役15年を言い渡されます。いわゆる宮澤・レーン事件です。戦後、宮澤はGHQの指令で釈放されますが、苛酷な拘禁生活がもとで1947年2月に27歳の若さで逝去しました。

40年後、弁護士上田誠吉(1926-2009年)が、『ある北大生の受難』などの著書で宮澤・レーン事件の全貌を解明し、宮澤は冤罪であったと指摘しました。

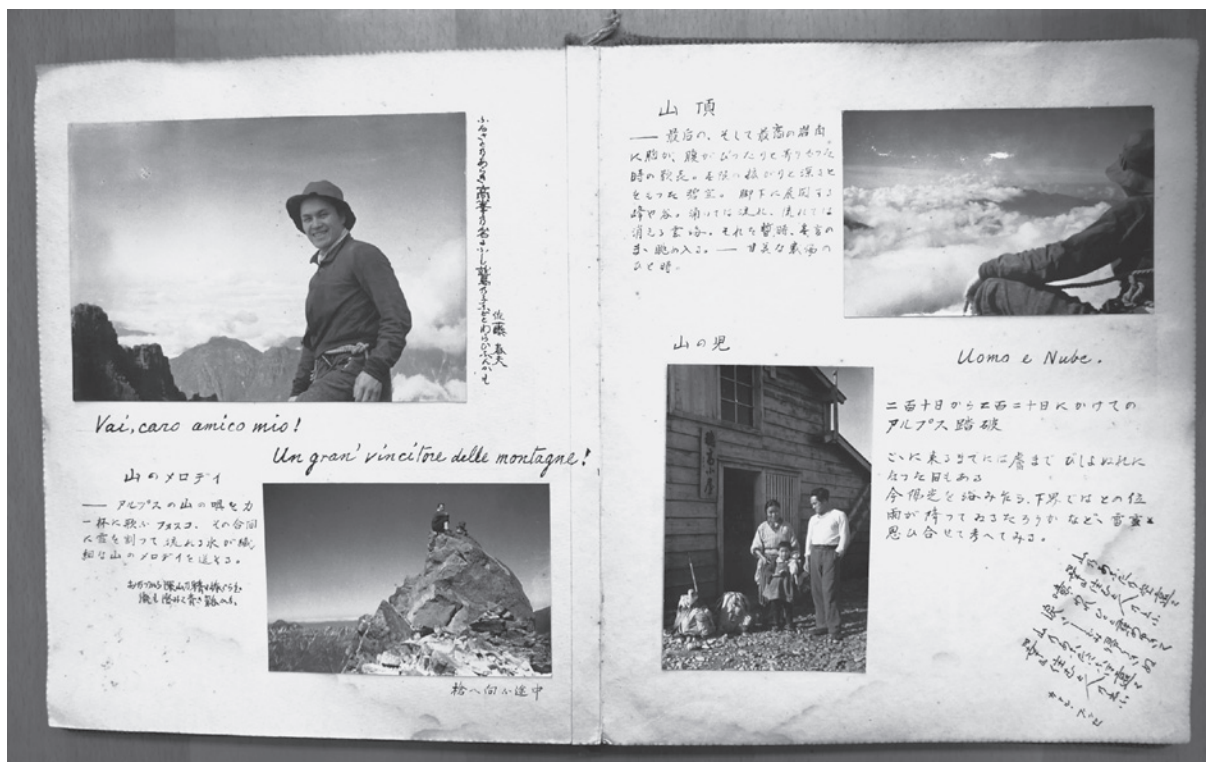
秋間氏からは、2012(平成24)年10月に、宮澤弘幸の予科持代のアルバム

1冊をご寄贈いただいております。この度、ご寄贈いただいたのは、アルバム2冊(幼少期～中学校生徒時代、工学部学生時代)と1890～1950年代の家族関係写真類です。

今後、大学文書館でこれらの資料を大切に保存し、戦時中に起きた宮澤・レーン事件を風化させることがないように、努めて参ります。

なお、百年記念会館2階展示回廊の一角に、宮澤弘幸及び宮澤・レーン事件を紹介する展示を行っております。この度、ご寄贈いただいた写真も展示しております。ご観覧ください。

(大学文書館)



工学部学生時代のアルバム

■お知らせ

平成26年度北海道大学公開講座（全学企画） 安全・安心な社会と暮らしを創る

主催：北海道大学

講座内容：

自然災害や原発事故，食品偽装，さらには近隣諸国との領土問題など，私たちの安全・安心をおびやかす出来事が相次いでいます。また，少子高齢化や経済のグローバル化など，社会の持続可能性をリスクにさらす変化も勢いを増しています。こうした中で，あらためて安全・安心を作り出すべく各分野でどのような研究や技術開発がなされているのか，また国際関係や経済の世界でどのような新しい動きが生まれつつあるのか，第一線の研究者がお話します。

申込期間：平成26年6月2日（月）～平成26年6月24日（火）（土曜，日曜を除く） 9：00～17：00

実施期間：平成26年7月3日（木）～平成26年7月31日（木）

定 員：100名程度

受講料：

全8回の講義を受講 5,000円

特定回の講義を受講 1回あたり1,500円

※いずれの場合も既納の受講料はお返しできませんのでご了承ください。

会 場：北海道大学情報教育館3階 スタジオ型多目的中講義室（札幌市北区北17条西8丁目）

受講資格：18歳以上の方であればどなたでも受講できます。（学歴・職歴は問いません）

修了証書：6回以上受講した方には，最終講義終了時に修了証書を交付します。

道民カレッジ：本講座は道民カレッジ連携講座として指定されています。（教養コース16単位）

申込手続きの流れ：

- ① はじめに，下記申込先にお問い合わせの上，定員に余裕があることをご確認ください。
- ② 専用の払込票により，郵便局または銀行等の窓口で受講料をお支払いください。その際，控えとして受け取ったE票は，受講申込み時に必要ですのでなくさないようご注意ください。
- ③ E票を裏面に添付した受講申込書を直接窓口へご持参いただくか，郵送でお申し込みください。

問い合わせ・申込先：

北海道大学学務部学務企画課（教育支援担当）

〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目 高等教育推進機構1階6番公開講座窓口 電話011-706-5567（直通）

日程・講義題目等

日 程	講 義 題 目	講 師
第1回 7月3日（木）	国境と人々の暮らし	スラブ・ユーラシア研究センター 教授 岩下 明裕
第2回 7月7日（月）	医学教育の国際的な標準化の動向とその課題	医学研究科 教授 大滝 純司
第3回 7月10日（木）	アクティブ・エイジングのための健康体力科学 “運動で奏でようからだと心のハーモニー”	教育学研究院 教授 水野真佐夫
第4回 7月14日（月）	健康の安心は口腔から 口腔の安心は唾液から	歯学研究科 准教授 高橋 茂
第5回 7月17日（木）	経済のグローバル化・脱工業化と地域通貨	経済学研究科 教授 西部 忠
第6回 7月24日（木）	エネルギーシフトの時代－天然ガスの台頭	理学研究院 教授 鈴木 徳行
第7回 7月28日（月）	食品添加物の誤解	農学研究科 教授 川村 周三
第8回 7月31日（木）	「ゲノム」を考える	情報科学研究科 准教授 小柳香奈子

各回とも，18時30分から20時30分まで（講義時間約90分，質疑・応答約30分）

（学務部学務企画課）

企画展示「読んで知る北大の人と歴史」開催中

ロビー展示：2014年4月1日（火）～2014年6月30日（月）

関連図書展示：2014年4月1日（火）～2014年5月30日（金）

附属図書館正面玄関ロビーと2階オープンエリアにおいて、企画展示「読んで知る北大の人と歴史」を開催しています。

附属図書館には系統的に集められた北海道（蝦夷）を含む北方地域の資料があり、国内でも有数のコレクションとして知られています。これらの資料を扱うための専門的知識と保存の技術を継承するため、平成25年5月から附属図書館に北方資料ワーキンググループが設置されました。今回の展示はワーキンググループによる新入生向けの企画です。

新入学の時期にあわせ、本学の歴史及びゆかりの著名な人物・事物についての基本的な解説を行い、また、展示内容について更に深く知るための関連図書を案内することにより、新入生に、本学のことをよく知ってもらうことを企図しました。

玄関ロビーにおける展示ポスターでは簡潔に特徴的なエピソードを紹介し、展示ケースでは関連する貴重資料を展示しています。

2階オープンエリアでは、関連本をまとめて展示しています。展示ポスターを見て興味のわいた方、これからの大学生活になにかヒントを得たい方、どうぞ手にとってご覧ください。

（附属図書館）



玄関ロビーでの展示風景



2階オープンエリアでの関連本展示風景

北海道地区福祉共同事業契約宿泊施設の開設

文部科学省共済組合北海道大学支部では福祉共同事業の一環として、毎年道内各地の宿泊所・保養所と利用契約し、宿泊費の一部負担を実施していますが、平成26年度においても次のとおり実施しています。

なお、予算の関係上、割当枚数に達した場合は、契約期間中でも利用券発行を停止しますので、ご了承願います。

1. 契約宿泊施設 宿泊施設一覧表のとおり
2. 契約期間 平成26年6月1日（日）～平成27年2月28日（土）
3. 共済組合負担額 利用者1人1泊につき1,500円補助
4. 利用方法 利用券の発行を受ける場合には、利用券発行申請書を所属部局の担当へ提出してください。
発行された利用券はチェックインの際に施設受付で提示し、利用券を使用して宿泊する旨を伝えてください。なお、インターネット予約等の際に、事前にクレジットカード等を利用して宿泊料を支払ってしまうと、利用券が使用できなくなりますのでご注意願います。
5. 利用資格者 組合員及びその被扶養者（小学生以上）とします。ただし、出張の際の利用はできませんので、ご注意願います。また、一度につき、3泊以上の利用はご遠慮願います。

平成26年度 宿泊施設一覧

施設名	所在地	電話
KKRホテル札幌	〒060-0004 札幌市中央区北4条西5丁目	011-231-6711
札幌ガーデンパレス	〒060-0001 札幌市中央区北1条西6丁目	011-261-5311
ガトーキングダムサッポロ	〒002-8043 札幌市北区東茨戸132	011-773-2211
定山溪ビューホテル	〒061-2302 札幌市南区定山溪温泉東2丁目	011-598-3223
定山溪鶴雅リゾートスパ 森の詩	〒061-2302 札幌市南区定山溪温泉東3丁目192番地	011-598-2671
KKRはこだて	〒042-0932 函館市湯川町2丁目8-14	0138-57-8484
啄木亭	〒042-0932 函館市湯川町1丁目18-15	0138-59-5355
望楼NOGUCHI 函館	〒042-0932 函館市湯川町1丁目17-22	0138-59-3556
グリーンピア大沼	〒049-2192 茅部郡森町赤井川229	01374-5-2277
八雲温泉 おほこ荘	〒049-3128 二世郡八雲町鉛川622	0137-63-3123
洞爺観光ホテル	〒049-5721 虻田郡洞爺湖町洞爺湖温泉33	0120-17-1085 0142-75-2111
洞爺サンパレス	〒049-5731 有珠郡壮瞥町字洞爺湖温泉7-1	0142-75-1111
湖畔亭	〒049-5721 虻田郡洞爺湖町洞爺湖温泉7-8	0142-75-2211
乃の風リゾート	〒049-5721 虻田郡洞爺湖町洞爺湖温泉29-1	0142-75-2600
名水亭	〒052-0316 伊達市大滝区北湯沢温泉町300-2	0142-68-6677
第二名水亭	〒052-0316 伊達市大滝区北湯沢温泉町300-7	0142-68-6677
ホロホロ山荘	〒052-0316 伊達市大滝区北湯沢温泉町34	0142-68-6677
登別グランドホテル	〒059-0592 登別市登別温泉町154	0143-84-2425
御やど清水屋	〒059-0551 登別市登別温泉町174	0143-84-2145
石水亭	〒059-0596 登別市登別温泉町203-1	0143-84-2255
ニセコグランドホテル	〒048-1511 虻田郡ニセコ町字ニセコ412	0136-58-2121
ルスツリゾートホテル	〒048-1711 虻田郡留寿都村字泉川13	0136-46-3331
かんぼの宿 小樽	〒047-0192 小樽市朝里川温泉2丁目670	0134-54-8511
休暇村 支笏湖	〒066-0281 千歳市支笏湖温泉	0123-25-2201
しこつ湖鶴雅リゾートスパ 水の詩	〒066-0281 千歳市支笏湖温泉	0123-25-2211
星野リゾート・トマム	〒079-2204 勇払郡占冠村字中トマム	0167-58-1122
サホロリゾートホテル	〒081-0039 上川郡新得町狩勝高原	0156-64-7111
国民宿舎あしべつ	〒075-0035 芦別市旭町油谷1	0124-23-1155
芦別温泉スターライトホテル	〒075-0035 芦別市旭町油谷1	0124-23-1155
大雪山白金観光ホテル	〒071-0235 上川郡美瑛町白金温泉	0166-94-3111
層雲閣グランドホテル	〒078-1792 上川郡上川町字層雲峡温泉	01658-5-3111
朝陽亭	〒078-1795 上川郡上川町字層雲峡温泉	01658-5-3241
朝陽リゾートホテル	〒078-1701 上川郡上川町字層雲峡温泉	01658-5-3911
ホテル日航ノースランド帯広	〒080-0012 帯広市西2条南13丁目1番地	0155-24-1234
ホリデーイン ホテル十勝川	〒080-0263 河東郡音更町十勝川温泉南16丁目2	0155-46-2555
かんぼの宿 十勝川 (8月31日まで)	〒080-0262 河東郡音更町十勝川温泉北9丁目1	0155-46-2141
ニュー阿寒ホテル	〒085-0467 釧路市阿寒町阿寒湖温泉2丁目8-8	0154-67-2121
鶴雅ウイングス	〒085-0467 釧路市阿寒町阿寒湖温泉4丁目6-10	0154-67-4000
あかん鶴雅別荘 鄙の座	〒085-0467 釧路市阿寒町阿寒湖温泉2丁目8-1	0154-67-5500
阿寒の森ホテル 花ゆう香	〒085-0467 釧路市阿寒町阿寒湖温泉1丁目6-1	0154-67-2500
KKRかわゆ	〒088-3465 川上郡弟子屈町川湯温泉1-2-15	015-483-2643
知床第一ホテル	〒099-4351 斜里郡斜里町知床ウトロ香川306	0152-24-2334
サロマ湖鶴雅リゾート	〒093-0216 北見市常呂町栄浦306-1	0152-54-2000
旅館塩別つるつる温泉	〒091-0163 北見市留辺蘂町滝の湯201	0157-45-2225
北天の丘 あばしり湖鶴雅リゾート	〒099-2421 網走市呼人159	0152-48-3211

(文部科学省共済組合北海道大学支部)

■同窓会との交流

北海道大学ほっかいどう同窓会設立記念 ノーベル化学賞 鈴木章先生を囲む座談会

北海道大学関係者の道内全域を網羅した「北海道大学ほっかいどう同窓会」が4月18日（金）に発足しました。学部・地域の枠を超えて地元と大学の連携を深める組織を目指し、初代会長には近藤龍夫北海道経済連合会会長が就任しました。

この同窓会設立に先立ち、同日、クラーク会館大講堂で300名を超える会員、関係者が参加し、2010年にノーベル化学賞を受賞した鈴木 章名誉教授を囲む同窓会設立記念座談会が開催さ

れました。

鈴木先生の基調講演では化学者になった経緯、恩師の杉野目先生やブラウン先生との出会い、ノーベル賞の受賞経緯や受賞時の行事など興味深い話で聴衆を魅了しました。引き続き、林美香子北海道大学客員教授を進行役として鈴木先生、近藤氏の3人で「北大同窓生の連携に向けて」というテーマで座談会を行いました。鈴木先生からは、「人との出会いの大切さ」、「北大からのノーベル賞への期待」、「老若男

女が参加して母校に貢献する同窓会への期待」などのご意見が述べられました。

本会への問い合わせは、以下ホームページのほっかいどう同窓会事務局までお願いします。

◆ほっかいどう同窓会ホームページ：
<http://www.hokudai-hc.com/news?c=14005434489777>

(総務企画部広報課)



座談会出演者
左から近藤氏、鈴木名誉教授、林客員教授



近藤氏の開催挨拶



座談会風景



座談会後の設立総会で祝辞を述べる山口佳三総長

■レクリエーション

平成25年度 第26回札幌社会人フットサルリーグに出場

11月3日（日）～3月21日（金）の日程で平成25年度 第26回札幌社会人フットサルリーグに出場しました。

最上位の1部から5部まで、全5部48チームで構成されるリーグ戦で、教職員サッカークラブは3部に所属し、5勝3敗の5位で全日程を終えました。

対戦成績は以下の通りです。

(教職員サッカークラブ)

11月3日（日）	教職員サッカークラブ	4 - 1	ELF
11月3日（日）	教職員サッカークラブ	4 - 1	アングル
12月23日（月・祝）	教職員サッカークラブ	6 - 1	Oguri
12月23日（月・祝）	教職員サッカークラブ	4 - 6	ちば
3月2日（日）	教職員サッカークラブ	7 - 1	ヤマカシ
3月2日（日）	教職員サッカークラブ	1 - 5	Network+
3月21日（金・祝）	教職員サッカークラブ	10 - 0	サイレンスFC
3月21日（金・祝）	教職員サッカークラブ	2 - 9	五十七年会

■表敬訪問

国内

年月日	来訪者
26.4.17	NTTコミュニケーションズ株式会社 取締役第二営業本部長 荒木 和彦 氏
26.4.18	小樽商科大学 学長 和田 健夫 氏
26.4.21	北海道大学国際婦人交流会 一行
26.4.23	北洋銀行 会長 横内 龍三 氏
26.4.23	天使大学 学長 武藏 学 氏



NTTコミュニケーションズ株式会社
取締役第二営業本部長 荒木 和彦 氏



小樽商科大学 学長 和田 健夫 氏



北海道大学国際婦人交流会 一行



北洋銀行 会長 横内 龍三 氏



天使大学 学長 武蔵 学 氏

(総務企画部広報課)

海外

年月日	来 訪 者	来 訪 目 的
26. 4. 3	中国総領事館 滕安軍 総領事	就任の挨拶
26. 4. 13	厦門大学 (中国) 朱崇実 学長	両大学の交流に関する懇談
26. 4. 21	スタンフォード大学医学部放射線腫瘍学科Quynh-Thu Le主任教授	国際連携研究教育局 (GI-CoRE) 招へい教員として量子医理工学グローバルステーションにおける研究打合わせ
26. 4. 23	湖南大学 (中国) 曹一家 副学長	両大学の教員・学生交流と共同研究に関する懇談
26. 4. 24	駐日リトアニア共和国大使館 Egidijus Meilunas特命全権大使	両国の交流に関する懇談



中国総領事館 滕安軍 総領事 (中央右)



厦門大学 (中国) 朱崇実 学長 (中央右)



スタンフォード大学医学部放射線腫瘍学科 Quynh-Thu Le主任教授 (中央)



湖南大学 (中国) 曹一家 副学長 (前列中央左)



駐日リトアニア共和国大使館 Egidijus Meilunas特命全権大使 (中央)

(国際本部国際連携課, 国際支援課)

■ 諸会議の開催状況

役員会（平成26年4月10日）

議案・平成27年度特別経費事前説明事業について

協議事項・科研費研究種目ステップアップ支援事業について

報告事項・副学長及び総長補佐の任命について

- ・平成25年度実施会計専門職大学院認証評価結果について
 - ・構内循環バス時間延長後の運行状況について
 - ・私費外国人留学生特待プログラムの対象への博士課程教育リーディングプログラムの追加について
 - ・小島三司奨学金の概要について
 - ・東日本大震災で被災した本学学部志願者への受験支援金の給付について
 - ・平成26年度学部入学者数について
 - ・ミッションの再定義（理学，農学，人文科学，社会科学分野）の公表について
 - ・遺伝子病制御研究所の分野名称変更について
 - ・人材育成本部の現状と将来計画について
-

教育研究評議会（平成26年4月16日）

議題・科研費研究種目ステップアップ支援事業について

- ・教員の懲戒について

報告事項・副学長及び総長補佐の任命について

- ・経営協議会の学内委員の指名について
 - ・平成25年度実施会計専門職大学院認証評価結果について
 - ・大学間交流協定の新規締結等について
 - ・小島三司奨学金の概要について
 - ・ミッションの再定義（理学，農学，人文科学，社会科学分野）の公表について
 - ・遺伝子病制御研究所の分野名称変更について
 - ・産業創出部門の設置について
 - ・学生の懲戒について
-

役員会（平成26年4月25日）

議案・科研費研究種目ステップアップ支援事業について

- ・博士課程教育リーディングプログラムにおける補助事業期間終了後の支援について
- ・平成26年度中期目標達成強化経費第一次決定事業について

協議事項・就業規則関連規程の一部改正について

報告事項・ミッションの再定義（保健系分野）の公表について

- ・ソフトウェア使用許諾権契約について
 - ・平成26年度総長室事業推進経費について
-

※規程の制定，改廃については，「学内規程」欄に掲載しております。

■ 学内規程

国立大学法人北海道大学人材育成本部規程の一部を改正する規程

(平成26年4月2日海大達第153号)

平成26年4月1日付けで、人材育成本部に置く事業部門である上級人材育成ステーションの業務実施責任者及び女性研究者支援室の室長の要件を改めることに伴い、所要の改正を行うものです。

北海道大学遺伝子病制御研究所規程の一部を改正する規程

(平成26年5月1日海大達第154号)

平成26年5月1日付けで、遺伝子病制御研究所の病因研究部門に置く分野の名称を改めることに伴い、所要の改正を行うものです。

■ 研修

平成26年度北海道地区国立大学法人等初任職員研修（一般職）

開催期間：平成26年4月9日～平成26年4月11日

開催場所：学術交流会館第一会議室

研修目的：北海道地区国立大学法人等の職員としての心構えを自覚させるとともに、初任職員として必要な基礎的知識を付与することを目的とする。



「開講式」挨拶（山口佳三総長）



受講風景



「特別講話」（村田直樹理事・事務局長）



「演習・グループワーク」
（株式会社アムリプラザ）

（総務企画部人事課厚生労務室）

■人事

平成26年4月10日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【総長補佐】 (期間：平成27年3月31日まで)	福 岡 淳	触媒化学研究センター教授

平成26年4月16日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【技術職員等】		
北海道大学病院看護部看護師	青 山 美 穂	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	秋 元 菜 那	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	阿 部 彩 加	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	阿 部 文 香	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	天 野 北 斗	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	荒 井 瞳	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	久 井 優 紀	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	平 井 なつみ	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	藤 田 晃	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	古 澤 彩 佳	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	古 矢 華 江	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	増 田 瑛 穂	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	増 山 飛 鳥	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	松 井 夕 李	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	松 下 佑 太	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	松 橋 なつ美	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	松 本 奏 絵	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	水 口 真 衣	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	南 早 紀	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	村 上 萌	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	村 田 知 弥	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	本 平 彩	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	森 谷 美 里	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	山 川 恵里奈	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	山 本 彩 乃	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	吉 田 佳 純	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	吉 田 鈴	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	渡 部 舞 子	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	伊 藤 由 梨	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	梅 林 秀 行	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	大 石 祥 枝	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	大 塚 広 貴	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	大 友 里 奈	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	大 橋 華 子	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	岡 千 絵	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	笠 嶋 結 那	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	川 浪 こずえ	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	川 村 まりあ	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	北 村 優 衣	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	木 下 知 子	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	栗 栖 優 奈	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	桑 島 彩	北海道大学病院看護部看護助手

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
北海道大学病院看護部看護師	桑 山 ありさ	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	児 島 美 咲	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	後 藤 なつみ	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	小 林 沙 矢	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	小 林 凌	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	坂 田 綾 乃	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	佐々木 沙 耶	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	佐 藤 朱 音	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	佐 藤 吏 子	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	澤 辺 千 夏	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	柴 田 真 志	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	島 田 美 優	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	城 市 理 佐	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	鈴 木 直 美	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	高 橋 由 衣	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	武 田 莉 奈	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	田 中 舞	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	種 田 夢 乃	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	津 野 咲 季	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	寺 井 美紗都	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	外 村 朋 子	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	鳥 羽 園 実	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	中 西 舞 亜 紗	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	中 島 理 奈	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	中 谷 妃 希	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	夏 伐 彩 華	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	難 波 亨	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	西 山 晶 絵	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	沼 田 愛	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	野 口 友 菜	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部助産師	伊 藤 香 織	北海道大学病院看護部看護師
北海道大学病院看護部助産師	加 藤 綾 華	北海道大学病院看護部看護師
北海道大学病院看護部助産師	久 保 恩	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部助産師	須 藤 菜月美	北海道大学病院看護部看護師
北海道大学病院看護部助産師	野 田 美 帆	北海道大学病院看護部看護師

平成26年4月18日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【技術職員等】		
北海道大学病院看護部看護師	桑 原 舞 衣	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	服 部 し の ぶ	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	松 本 佳 菜	北海道大学病院看護部看護助手
北海道大学病院看護部看護師	渡 邊 祐 子	北海道大学病院看護部准看護師
北海道大学病院看護部助産師	真 壁 郁 子	北海道大学病院看護部看護師

平成26年4月30日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【助教】 (任期满了)	松 永 明 宏	北海道大学病院助教

平成26年5月1日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【部局長・施設長等】 スラブ・ユーラシア研究センター長 (期間：平成28年3月31日まで)	家 田 修	スラブ・ユーラシア研究センター教授
【教授】 (転出) 東北大学大学院薬学研究科教授	中 林 孝 和	電子科学研究所准教授
【准教授】 大学院理学研究院准教授 北海道大学病院准教授 電子科学研究所准教授 (転出) 名古屋大学大学院環境学研究科准教授	三 浦 篤 志 池 田 聡 山ノ内 路 彦 中 川 書 子	採用 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院講師 採用 大学院理学研究院助教
【講師】 大学院薬学研究院講師 北海道大学病院講師	小 林 正 紀 大 西 俊 介	大学院薬学研究院助教 大学院医学研究科助教
【助教】 大学院歯学研究科助教 大学院獣医学研究科助教 北海道大学病院助教 遺伝子病制御研究所助教	角 田 晋 一 金 尚 昊 加 藤 亮 子 亀 山 武 志	採用 採用 採用 採用
【技術職員等】 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師	津 川 恵 実 渡 邊 由 紀 子	採用 採用

新任部局長等紹介

平成26年5月1日付

スラブ・ユーラシア研究センター長に



いえだ おさむ
家田 修 教授

平成26年4月30日限りで宇山智彦スラブ・ユーラシア研究センター長が任期満了となり、その後任として家田修教授が発令されました。

任期は、平成28年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日 昭和28年1月15日
 昭和52年3月 東京大学経済学部卒業
 昭和60年9月 東京大学大学院経済学研究科理論経済学経済史学専門課程第2種博士課程単位取得退学
 昭和62年3月 博士(経済学)(東京大学)
 昭和61年4月 広島大学経済学部助手
 平成2年10月 北海道大学スラブ研究センター助教授
 平成7年2月 北海道大学スラブ研究センター教授
 平成14年4月 } 北海道大学スラブ研究センター長
 平成16年3月 }
 平成26年4月 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授

資料

役 職 員 数

平成26年5月1日現在

部 局 等	職 種	総 長	理 事	監 事	小 計	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	小 計	専門職	事務職員	技術職員	合 計
役員		1人	7人	2人	10人										10人
監査室													5		5
事務局	総務企画部												70	1	71
	財務部												80		80
	学務部												64		64
	研究推進部												37	1	38
	施設部												9	25	34
附属図書館												91		91	
文学研究科・文学部					53	37		12			102		15	2	119
法学研究科・法学部					34	19	3	13	4		73		21		94
経済学研究科・経済学部					23	20		6			49	2	7		58
医学研究科・医学部					42	28	14	60	3		147			13	160
医学系事務部													38	2	40
歯学研究科・歯学部					18	16	3	49			86		10	5	101
獣医学研究科・獣医学部					16	14	2	15			47		13	3	63
情報科学研究科					41	37		18			96				96
水産科学院・水産科学研究所・水産学部					30	36	1	9			76			40	116
函館キャンパス事務部													22	4	26
環境科学院・地球環境科学研究所					20	28		10	1		59				59
環境科学事務部													12		12
理学院・理学研究所・理学部					75	72	8	44	2		201	2		19	222
理学・生命科学事務部													41	2	43
薬学研究科・薬学部					15	12	5	23			55			3	58
薬学事務部													11		11
農学院・農学研究科・農学部					47	41	24	11			123			11	134
農学事務部													22	2	24
生命科学院・先端生命科学研究科					11	6	2	10			29				29
教育学院・教育学研究所・教育学部					16	18		2	1		37				37
教育学事務部													7		7
国際広報メディア・観光学院・メディア・コミュニケーション研究院					26	23		2			51				51
メディア・観光学事務部													8		8
保健科学院・保健科学研究所					28	14	6	21	1		70				70
工学院・工学研究所・工学部					102	98	2	88	1		291			48	339
工学系事務部													67	4	71
総合化学院															
公共政策学教育部・公共政策学連携研究部					10	7	2				19				19
北海道大学病院					5	14	54	85			158		115	659	932
低温科学研究所					14	12	1	19			46		10	9	65
電子科学研究所					16	13		21			50			10	60
遺伝子病制御研究所					8	5	3	12			28			7	35
触媒化学研究センター					8	8		6			22			6	28
スラブ・ユーラシア研究センター					7	4		4	1		16				16
情報基盤センター					7	4		2			13				13
アイソトープ総合センター					1		1	1			3			2	5
総合博物館					2	3	2	2			9				9
量子集積エレクトロニクス研究センター					2	3					5				5
北方生物圏フィールド科学センター					15	15		9			39		18	72	129
知識メディア・ラボラトリー															
脳科学研究教育センター															
人獣共通感染症リサーチセンター					6	1	1	2			10			2	12
大学図書館								1			1			1	2
観光学高等研究センター					3	1					4				4
外国語教育センター															
アイヌ・先住民研究センター					1	5					6				6
社会科学実験研究センター									1		1				1
情報法政策学研究センター															
次世代都市代謝教育研究センター															
数学連携研究センター															
サステイナビリティ学教育研究センター					1						1				1
トポロジー理工学教育研究センター															
環境健康科学研究教育センター						1					1				1
探索医療教育研究センター					1	1					2				2
保健センター					1		2				3			8	11
国際連携研究教育局					(3)				1		1				1
技術支援本部															
情報環境推進本部												1	14	13	28
産学連携本部												7			7
アドミッションセンター															
人材育成本部															
創成研究機構						1		1			2	1		8	11
国際本部					4	8	3				15	5	28		48
高等教育推進機構					3	6					9			4	13
サステイナブルキャンパス推進本部															
安全衛生本部						1					1	1			2
大学力強化推進本部															
フード&メディカルイノベーション推進本部															
北キャンパス合同事務部													13		13
合 計		1	7	2	10	712	632	139	560	14	2,057	19	848	986	3,920

※国際連携研究教育局の役職員数の（ ）内は、北海道大学ユニットの本務者数で内数。当該職員は、原籍部局等の役職員数に計上（医学研究科・医学部：1名、人獣共通感染症リサーチセンター：2名）。

(総務企画部人事課)

編集メモ

●NHKの歴史情報番組「歴史秘話ヒストリア」“少年よ 大志を抱け！～クラークと教え子たちの北海道物語～”の再放送が決定しました！昨年10月に放送され、今回は名作選として6月11日（水）に再放送されます。
番組では札幌農学校初代教頭であるクラーク博士のエピソードが紹介され、旧昆虫学及養蚕学教室が撮影場所として登場しますので、ぜひご覧ください。

☆放送日時

6月11日（水）22：00～22：43

☆エピソード

1. クラーク 北海道へ
2. 熱血教師とやんちゃな生徒たち
3. 時計台 愛と別れのメッセージ



クラーク博士胸像



2008. 5. 6 函館本線 七飯～大沼（七飯町）

北の鉄道風景 14 山笑う

俳句に「山笑う」という春の季語がある。これは、春を迎えて草木が一斉に芽吹くことで山全体が明るく感じられる様子を表現するための言葉であり、11世紀後半の中国の画家、郭熙による画論「臥遊録」の「春山は淡冶にして笑うが如く」という記述に由来している。写真は道南・七飯町の山間部、七飯と大沼間をショートカットする函館本線の新ル

ー、通称「藤城線」である。ここを通過する列車の大部分は特急列車と貨物列車であるが、一日に数本、写真のようなローカル列車も走る。新緑真っ盛りで「山笑う」山間部を単行列車がゆっくりと登って往く。

情報科学研究科 准教授 山本 学

北大時報 ⑤ No.722 平成26年5月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。http://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html